

地域活性化伝道師プロフィール

分野	地域産業・イノベーション・農商工連携		農・林・水産業	◎		
	地域医療、福祉・介護、教育		観光・交流	○		
	地域コミュニティ・集落再生	○	環境	○		
	地域交通・情報通信		まちづくり	○		
ふりがな		さとう あきこ				
氏名		佐藤 安紀子				
所属	名称	NPO 海のくに・日本				
役職	理事・編集長					
連絡	住所 (職場)	〒104-0061 東京都中央区銀座 3-12-15 銀座細谷ビル NPO 海のくに・日本				
	連絡先	e-mail	gyo[アットマーク]wff.gr.jp			
		TEL 03-3546-1291	FAX 03-3546-1164			
連絡方法		E-Mailでお願いします				
略歴		1986 年武蔵大学卒業後、フジサンケイグループの出版社で国際交流誌の編集を担当。1990 年(株)リロエンタープライズに移り、地域活性化事業を担当。夕刊紙のインタビュー記事とコラムを担当。1993 年、インタビュー記事で水産界を取材したことから、日本の水産業が抱える問題に気付き、上司である白石ユリ子を補佐して市民団体「ウーマンズフォーラム魚」を立ちあげ活動を開始。また 2010 年には水産教育 NPO として NPO 海のくに・日本により事務局を担当する。2012 年から子どもたちが記者となって離島の大切さを伝える活動「われは海の子」をスタート。4 年間で 12 の離島と東京の小学校(小学生)を結び事業を実施している。				
著作・論文等		「見えない国境」を見に行こう！～地図上の海が、ぼくらの身近な海になった～(OPRF 第 304 号 2013.04.05 発行)				
取組概要		<ul style="list-style-type: none"> ・漁業と魚食文化について考えるシンポジウムの開催(1993 年～) ・漁村の女性と都市部の女性の交流活動「浜のかあさんと語ろう会」(1996 年～) ・小学生と漁村が交流する海彦クラブ活動(2000 年～2011 年) ・小学生が離島を取材するわれは海の子活動(2012 年～) ・水産の意義を伝える本の制作、発行「クジラから世界が見える」 ・モロッコからナミビアまで西アフリカ 22 力国の女性漁業者ネットワークを対象に、日本のすり身文化を伝えるワークショップ活動を継続実施(2011 年～)。アフリカ開発会議にもアフリカの女性たちとともに参加し漁業の重要性を発信。 				
メッセージ		・漁業は、農業に比べ現場が見えない産業ですが日本にとって大切な食料資源です。日本列島は周囲に2000種類ともいわれる多様な魚に恵まれ、私たちは父祖の代から多様な水産物を多彩な食べ方で味わってきました。日本人程、海と魚の恩恵に浴してきた民族は世界に例がありません。この日本人と海との深い関わりを、魚				

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

登録期間 令和7年10月1日～令和8年9月30日

	離れを起こしている現代の日本人に伝えるとともに、ひとりひとりが海と魚を大切にするサステイナブルユースの考え方のもと、具体的な活動を積み重ねてゆきたいと思っています。海の温暖化による海洋環境の変化はすさまじく、世界的に漁獲量が伸び悩んでいますが、獲れる魚は一匹一引きが宝物です。感謝して大切に味わうことを、こどもたちに伝えてゆきたいと願っています。
関連ホームページ	http://www.wff.gr.jp/conte.html
活動エリア	東京、地方都市、漁村

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。